

(報告)

「府立高校特色化推進プラン（最終案）」について

平成24年度のアクションプラン「府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～」最終案について、別紙のとおり報告します。

平成24年11月26日

教育長 田原 博明

府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～ 最終案

検討会議名 府立高校特色化推進プラン検討会議
 担当部課 教育庁指導部 高校教育課

■現状と課題

社会情勢の変化、経済・雇用情勢の悪化、グローバル化・少子化などの進展などに伴い、高校教育を取り巻く環境が激しく変化している。また、高校等への進学率が98%を超え、中学生のほとんどが進学する中、生徒の学ぶ意欲や興味・関心、目的意識、進路希望などが多様化している。

現在、府立高校46校では、生徒の個性・能力を最大限に伸ばすため、教育システム・入試制度の見直しや、各校の魅力づくりを進めているところであるが、さらなる府立高校全体のレベルアップを図り、生徒一人一人に応じた教育と時代の変化に対応した教育を実践するため、各高校の特色化を推進することが必要である。

■達成したい具体的な目標

- 1 府立高校全体のレベルアップ
- 2 生徒に対するケアの充実
- 3 各高校の特色化推進

■プランの方向性～特色化を進める10の柱と方向性

柱	方向性や具体案
①質の高い教育	<ul style="list-style-type: none"> ○全校に最先端のICTを活用できる環境を整備 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末や専用教材等の整備 ・ヘルプ機能も兼ねた情報教育アドバイザーの配置 ・生徒が使えるポータルサイトの導入 ○府立高校でしか学べない特色ある教科・科目の開設 ○入学から卒業までの生徒の学力状況・生活実態の変化の把握 ○民間ノウハウを取り入れた新しい指導方法や授業の展開 ○生徒一人一人の力を最大限伸ばすための新たな指導方法の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・35人程度学級、少人数指導方法、大規模講座 ○北部地域の医療を担う人材の育成 ○中高一貫教育の今後の在り方の検討 ○将来のスペシャリストを育てる職業系専門学科教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成や職業につながる資格取得の推進 ○社会のルールやしぐみを学ぶシティズンシップ教育の充実
②教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○特色化を具体化する新たな教職員配置方法の開発や加配措置 ○従来の方法にとられない教職員の採用と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野のスペシャリストの採用 ○時代の変化に対応した力量アップにつながる研修 <ul style="list-style-type: none"> ・民間力活用やOJTを充実させる仕組みづくり ・教職員の資質能力の向上に向けた、校種の枠を超えた研修 ○学校経営に参画する事務職員の育成 ○各高校の特色に応じた教職員の認証制度の導入
③府民の信頼を得る学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○校内アセスメントや広報・企画など、学校裁量による新しい校内組織に応じた人的支援 <ul style="list-style-type: none"> ・校内アセスメントを主導する特別チームへの人員配置 (チームリーダー等に対する授業時間の軽減など) ・ガンバル高校への応援、予算・人員措置 ・外部からの寄付の受入など、高校を支援する方策の検討

	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営の「見える化」推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による評価や学校教育モニター等の導入 ○「脱少年非行ワースト1」を目指した生徒指導体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡推進員の配置など中高連携した指導体制の構築
④徹底した進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育推進チームの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザー等の常設 ・あらゆる機関と連携した進路指導体制強化（人員充実） ○真の自立につなげるキャリア教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として生きるために必要なスキルを身に付けさせる教育プログラムの確立 ・個に応じた教育プログラムの作成・実践
⑤修学の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○交通不便地にある高校への施策 <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を高めるための寮の設置 ・地域の公共交通機関と連携したスクールバスの運行 ・通学費や寮費の負担を軽減する補助制度の拡充 ○それぞれの分野のスペシャリスト（専門職員）配置 <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を含めたチーム指導体制の整備とコーディネートする人材の配置 ・外部人材の活用や外部委託、事務職員の活用などによる教員の生徒と向き合う時間の確保 ・スクールカウンセラーの配置の拡充 ・放課後等の自学自習を支援する人員の配置
⑥部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○全国トップレベルのアスリートの育成 ○トッププレイヤー、指導者の特別コーチ招聘 ○生徒が生き生きと輝く部活動の創設
⑦土曜日の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜日を活用した学校教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の活用や外部委託による新たな学力向上策の展開 ○府立高校の人材活用や施設開放等による地域への貢献 ○土曜日だからできる異年齢交流の推進（小・中学生、高齢者等）
⑧多様な人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○文化活動・芸術教育の充実（豊かな人間性の育成） <ul style="list-style-type: none"> ・拠点校方式による施設設備の重点整備 ・生徒の活動の場を広げる支援策の充実（経費補助など） ○チャレンジ精神の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・起業家支援や体験活動の充実 ・グローバル人材育成に向けた海外留学制度の拡充 ・職業系専門学科に学ぶ生徒の海外体験留学の実施 ○「古典の日」にちなんだ京都ならではの伝統文化事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の伝統文化等の取組への支援
⑨発信力・広報力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○府立高校への志願につながる生徒・保護者へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティのより積極的な活用 ・中学校の退職校長等の高校への配置等による中高連携推進体制の整備 ○民間手法による各校広報活動の刷新
⑩各校独自の施設設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○各高校の特色化に直結する施設設備の重点整備（学習指導、専門教育、部活動など） <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って進学する生徒の「やる気」応援施設の整備 ・栄養管理の整った宿泊施設や寮の整備 ○生徒の居場所となる学習室の整備 ○災害等緊急時の生徒の安全確保のための設備等の整備

■ 検討委員からの主な意見

- ・ 質の高い教育を進めていくためには、機器・施設の整備、教員の資質向上、さらには工夫した教育を推進するための教員配置が必要である。
- ・ 北部地域の医療の問題は深刻である。府立高校から医学部に生徒を送り出し、医師となって地元に戻ってくるという実績をつくり、医師を定着させなくてはならない。北部の高校に医学部進学コースの設置が必要である。
- ・ ICTは、子どもの視覚に訴えるという点で非常に効果がある。社会や理科でのイメージづくりなどにおいては、臨場感を持って理解できるなど効果も大きい。生徒自身が機器を活用してプレゼンテーション力を定着させることが大切である。
- ・ 高校入学段階での生徒の学力実態は大きく変化している。自校の生徒の学力実態を把握する上で、府立高校実力テストの活用の工夫がより必要になる。
- ・ 高校卒業後進学しない生徒が、自立して生活していくためには、高校教育の中で、ある程度のソーシャルスキルを習得させ、キャリア教育を充実する必要がある。基礎学力の向上は教職員が担い、ソーシャルスキル教育やキャリア教育は外部の専門家が担うなど、両輪で進めていくことも大切である。
- ・ 高校に入学してから、今後の生活や進路のことなどをきちんと指導してくれるキャリアカウンセラーの配置が、府立高校の底力を上げていくことにつながる。
- ・ すでに何校かの高校では、特色化に向けた学校改革が始まっているが、今回の検討会議を受けて、さらに、各高校独自の改革に向けた「本気度」を示す必要がある。そのためには、改革を推進するための校務分掌が必要である。特に、若い世代の教員がその任を担い、推進力となる必要がある。ただし、特定の教員に負う形の改革は長続きしないので、組織的に取り組むことが大切である。
- ・ 学校改革にあたっては、大胆な発想が必要である。「どこから切っても同じ金太郎飴」のような府立高校の在り方を根本から見直し、高校が向かいたい方向性がクリアに見えるような大胆な改革が求められている。
- ・ 部活動で結果を出すには、やる気のある生徒、素質のある生徒がいて、熱心な指導者がいて、常時使用できる施設があることが必須となる。
- ・ 教育課程上、例えば、土曜日に授業をしようと思っても府立高校では実施できない。私立高校とは非常に大きな差がある。府立高校独自に規制緩和を行い、私立高校と同等のことができるようにする必要がある。
- ・ 寮の整備も必要だと思うが、保護者は自宅から通えることに安心感を抱かれる。北部地域では、18歳で家を出ることが多いが、15歳でとなると保護者としては不安もある。鉄道もバスも便数が少ないため、高校で部活動や勉強をしたくても、時間が制約される。私立高校のように通学バスなどがあれば、さらに子どもたちの選択の幅が広がっていく。
- ・ 高校の特色化を支える条件面の整備をもっと考えてほしい。あんしん修学支援制度によって、私立高校と府立高校の費用面での条件は同じようになりつつある。
- ・ 府立高校の強味は、地域性である。単にその地域にあるということではなく、地域の一人として認められる学校となっているかという視点で、教育成果を点検していく必要がある。
- ・ 学校だけで改革を進めるのではなく、保護者や中学校、地域、民間などによるサポート体制づくりが必要である。外部の力を学校改革に取り入れていくべきである。

府立高校特色化推進プラン（中間案）に対するパブリックコメントの概要（要旨）

- 1 意見募集期間 平成24年10月11日（木）から11月7日（水）まで
- 2 意見提出件数 29件
- 3 意見の概要 プランの趣旨や内容に賛同・期待する意見が大多数

①質の高い教育

- 生徒用のタブレット型端末を整備することで、校外でのフィールドワークを積極的に取り入れ、体験型の授業を充実できるのではないかと。
- ICTを活用し、紙を一切使わない授業を実施する高校があってもよい。
- 情報端末を適切に活用すれば、小・中学校では取り組めなかったようなクリエイティブで中身の濃い取組が可能である。
- 35人学級もよいが、逆に、学校によっては1講座80人や120人といった授業もよいのではないかと。優秀な先生の優秀な授業を多くの生徒が受けられることになり、その生まれた人的余力で、少人数習熟度授業を行うといったことも可能である。
- 体育では、生涯スポーツにつながるような内容や習熟度別の授業があってもよい。運動が嫌いになるようなことのない工夫が必要である。
- 学校行事を1学期に集約し、高校3年生は2学期以降は勉強のみに専念できるなどの柔軟な教育体制を敷いてもいいのではないかと。夏から受験まではまさに予備校そのものの学校があってもいいのではないかと。
- 地域の公共施設を利活用し、進路別・習熟度別に講座展開する公立塾を設置すべきである。難関講座には、高校教諭を配置し、振り返りや基礎基本学習には、中学校や小学校教諭を配置するなど、校種の枠を超えて、地域生徒の学力伸長や確かな進路保障を目指すしくみが必要である。
- 府立高校実力テストの作成にかかる労力・経費は、最小の経費で最大の効果を発揮する予算の使い方になっているか疑問である。優れた市販テスト問題を活用することで、テスト作成の労力を普段の授業に振り分けた方が、生徒の学力向上に繋がるのではないかと。
- 各教科の学習方法や、生徒の学習上の疑問に答える掲示板等の機能を備えたポータルサイトを構築すべきである。府立高校生なら誰でもアクセスでき、府立高校教員であれば誰でも関連情報をアップできるようにすることで、学習支援の強力ツールになると考える。
- 「北部地域の医療を担う人材の育成」には賛成であり、教員も含め北部出身者が北部に戻る施策が必要である。北部地域の活性化を考えてほしい。
- 医療を担う人材を育成できたとしても、北部地域に戻って来なければ意味がないので、教育委員会だけではなく、行政全体で北部地域に戻りたくなる魅力的な地域づくりを進める必要がある。
- 北部地域の医療を担う人材の育成について、例えば、府立医大に北部地域推薦枠を設けたり、インターンで北部に戻るシステムを導入するなど、医療の現場に触れる機会を増やし、医科大学と学校と地域が連携するような取組をしてほしい。

- 中丹地域の府立学校の進学実績を伸ばすために、福知山高校に附属中学校を設置すべきである。地元の公立中学校に不安を感じ、私立高校に入学させている保護者もいる。安心して通える公立中学校として、附属中学校を設置してほしい。
- 北部地域の高校を良くしていこうという動きが全く見えない。福知山高校や宮津高校に中高一貫があってもよい。「北に〇〇高校あり」と誇りを持てるような学校にしてほしい。
- 近隣の中学校施設を活用して、南陽高校を全国レベルの中等教育学校にしてほしい。南陽高校の近隣地域は、東大や京大への進学率全国No. 1であるが、最初は南陽高校を希望した小学生も塾に通った結果、有名私学中学に進学してしまう。また、公立中へ進学した生徒の最上位層は京都市立堀川、西京高校に進学している。こうした子どもを南陽高校で受け止めれば、地域的にスポーツ、文化面での活動も非常に盛んなことから京都を代表する高校となるはずである。
- 北部地域は介護施設が充実しているが、介護福祉士の資格取得のための学習がしづらい状況にある。大江高校では福祉の学習をしており、交通の便もいいので、介護福祉士の学習ができる専攻科を設置してほしい。専攻科なら高校卒業後の生徒が地域の介護施設で実習を行うなど、地域と連携した人材育成が可能である。
- 教師になりたい大学生を夏休みや冬休みなどに高校（特に北部地域や生徒指導困難校）に派遣し、部活動や授業の補助をさせてはどうか。

②教職員の資質向上

- 質の高い教育を目指すには教職員のゆとりが不可欠なので、小規模校においても教職員の定数を増やしてほしい。
- 学校の特色化を進めるのに一番大切なことは、学校をより良くしたいという教職員全員の共通理解であるので、校内に改革部を立ち上げ、自校をどのようにしたいのかを真剣に考えればよい。少人数規模の学校では教職員数に余裕がなく、組織化が難しいかもしれないので、教職員を増やしてほしい。
- 基礎学力の充実、キャリア教育、生徒指導、特別支援教育をはじめ、多様な生徒への指導や部活動と、教職員は週休日も指導に時間を費やし教育活動に取り組んでいる。特色づくりをさらに進めるためには、教員自身の指導力向上や新たな取組についての学びが必要であり、そのためには教員の増員、校長裁量予算の確保が欠かせない。新たな取組を進める中で教員自身も学び続け指導力も育ってくる。是非とも生徒と向き合う時間を確保し、課題研究等の指導を進めながら大学等との関係機関との調整などがもう少しゆとりを持って取り組める環境を考えてほしい。
- 高校には研究機関ではなく、教育機関としての役割が期待されているので、「質の高い教育」における「質」とは、大学的な高度・専門的内容ではなく、「人間としての質」「社会人としての質」を高める教育であってほしい。そのためには、ソーシャルスキルやキャリア教育などをしっかり生徒に指導できる教職員が必要であり教職員が研修に参加でき、研鑽を積める環境や経費が必要である。

- 将来の担い手を育てる上で教育はとても重要である。教員給料が府の予算の多くを占めているものの、教員や生徒へのソフト部分の予算が大変少ないことは問題であると思う。プランの方向性は賛同するものが多いが、特に教員の資質向上について、大変忙しい教育現場の中でどう実現していくのかが気になる。民間から企画提案をもらい、魅力ある授業づくりや経営マネジメントができる研修を実現してほしい。
- 今後、ICTを用いた授業が増加すると思うので、効果的なICT教育についての研修を府内どこでも受講できるようにしてほしい。
- 中堅教員が若手教員に対し、近隣校持ち回りで、気軽に悩みを打ち明けながら、社会人としてのマナーや授業力、生徒指導力向上等を図る場として、「若手育成塾」を各校に設置すべきである。

- 高校の授業に、中学校の教員がティームティーチング要員として参加したり、中学校や小学校の授業やHR活動に、高校教員が補助として参加するといった異校種間連携の取組を通じて、多面的な指導力向上を図るべきである。
- 近隣校同士で空き時間等を利活用し、恒常的に授業参観を行い授業力向上を図るべきである。

○公立高校は潰れないという意識から、教師に危機感がない。全教職員が生徒の力を伸ばして結果を出すという意識を持ち、教師は誰に何を何のために教えるのかという目的意識を再確認する必要がある。保護者はよりよい就職・進学という結果を学校に求めており、それを教職員が理解していれば、今なにをすべきか自ずとわかる。ただ、現状ではすべての保護者の要求に応えることが難しいのは確かである。教師の目的意識や指導力を高めるには、教師が教えることに専念できる環境づくりが重要である。教育目標にそった指導は3年が一つの目安だが、その途中で不本意な人事異動が行われれば、教師の意欲を削ぐことになるので、異動にあたっては納得できる理由を本人に伝える必要がある。

また、学級運営や生徒に関わること以外の事務処理は学校事務職員が行うべきである。事務職員がすべき仕事まで教師が行うことがないよう、教師が子どもに向き合える時間や教材研究に費やせる時間を作るよう、事務職員は学校の一職員としての自覚をもって役割を果たすことが必要である。

実際に指導力のある教師とそうでない教師がいるため負担が偏っている。プランを推進する前に学校が指導力のある教師に対して、教えることに専念でき、働きやすい環境を提供できる体制であるのかを見直すべきである。

③府民の信頼を得る学校運営

- 高校は義務教育ではないのだから、広い視野を持った生徒をはぐくむことが大切である。さすが京都！と言われるような高校にしていってほしい。
- 高校は大学への通過点ではないので、授業、部活やイベントなど、なんでもいいから生徒の記憶に残るようなことをしてほしい。高校の3年間は一番輝ける時間であり、その気持ちにこたえる覚悟を高校はもってほしい。
- 公教育は底辺をしっかりとするのが大切だが、上位層を私学にまかせっきりにしてもいけない。税を投与して教育を行うからには、すべての層のニーズにこたえきることが必要である。集中と選択のできる私学よりも効率は悪く、経費も

多くかかることになるだろうが、その点は、公立の中で役割分担をしていくことで乗り切ってほしい。

- 高校の特色は勉強や部活だけではなく、その高校の地域や高校自体の風土、雰囲気も特色であり、高校生活がどれだけ充実しているか、地域の人とどれだけ協力しているかで積み重ねられるものである。
- 「脱少年非行ワースト1」を目指すよりも、具体的に非行件数などを減らすことを目標にした方がいい。
- 学校には様々な事業がありすぎるので、もっと精選してもよいのではないか。
- 学校はチームで動くので、優秀な教員として個人を表彰するのではなく、教職員全体で高めあっている学校を表彰してほしい。

④徹底した進路指導

- 「高校卒業後進学しない生徒が、自立して生活していくためには、高校教育の中で、ある程度のソーシャルスキルを習得させ、キャリア教育を充実する必要がある」との委員意見に賛成である。将来の就職に向けて、高校でもっとスキルアップできる教育をすることが大切である。
- 保護者としてはやはり卒業後の進路が心配なので、キャリア教育の拡充に全面的に賛成である。放課後や休み中の補習授業、勉強合宿などを実施してほしい。
- 地域企業や自治体等と連携し、商店街の空き店舗を活用したり、大規模店の販売スペースを間借りして、高校生が運営する物産店を常設してほしい。専門学科の生徒だけでなく、キャリア教育の一環で普通科生徒も積極的に参画することで、学校や地域の活性化、生徒の職業観の涵養やコミュニケーション能力の育成に寄与すると考える。運営は、各学校から担当教員を捻出し、プロジェクトチームを編成して当たってはどうか。

⑤修学の支援

- 広域から良い生徒を集めるのであれば、通学費補助制度について改善すべきである。最低でも通学費が1ヶ月1万円を超える分の半額ぐらいは補助してほしい。
- 通学費や寮費の補助は負担の軽減ではなく、全額補助にしてほしい。
- 部活動や勉強したい生徒が時間を気にせずできるよう、通学バスを走らせてほしい。
- 安価な料金でスクールバスを運行させるなど、学校の特色化を進める前に施設、設備、交通機関を充実してほしい。
- 中丹地域には、東舞鶴高校や大江高校のように交通の不便な学校があるので、公共交通機関との連携を進め、通学しやすい環境を整備すべきである。

⑥部活動の充実

- 全国トップレベルのアスリートの育成は、徹底的にやってほしい。サッカーならA高校、野球ならB高校というように、公立京都オールスターチームを作してほしい。そのためには、選手が競技に集中できる環境づくりが必要であり、寮の整備は非常によいアイデアである。

○県外遠征だけではなく、世界で通用するように府の1位の学校は海外にも遠征したり、また、海外の強豪校を招致するなど、強いチームとぶつかる機会をもっと作ってほしい。

⑧多様な人間力の育成

- 子どもたちに、「早寝、早起き、朝ご飯」など、基本的な生活習慣の大切さをしっかりと指導してほしい。
- 昨今のいじめ問題も踏まえ、人の気持ちになって考えられる、また、努力して人の気持ちをわかろうとするような「思いやりの心」を持った人づくりをしてほしい。
- 京都にある公立高校にも関わらず、伝統文化を専門的に扱った学校がないように思う。去年の国民文化祭では様々な部活動が活躍していたが、学校全体で伝統文化に浸ることができるような学校がないのではないか。世界有数の文化都市「京都」にふさわしい文化の香りただよう高校をつくってほしい。

⑨発信力・広報力の強化

- 私立高校ガイドというテレビ番組があるが、公立高校もこうした番組があれば、もっと公立高校を身近に感じられる。高校の特色や取組をもっとアピールしてもよい。
- 公立高校の活躍を新聞で見ると元気が出る。是非とも高校生には頑張ってもらいたいし、頑張れば報われる環境を作ってほしい。
- 府立高校生の頑張っている姿がよく新聞に載っている。もっと色々な機会を取り上げてあげたらいいのではないか。
- 保護者や地域住民による学校紹介コーナーを掲載したスクールガイドを作成してはどうか。教員目線ではない、インパクトのある冊子になると期待できる。
- 教員、保護者、地域住民、在校生等を巻き込んだ「地域府立高校情報誌」を作成してはどうか。作成した情報誌は、地域に無償で配布するとともに、公式ホームページからダウンロードできるようにしてもらいたい。
- 「結果を出すことが、最大の広報だ。」といった揺るがぬ信念のもとに、広報活動ではなく、教育に専念することを特色とする高校があってもよい。

⑩各校独自の施設設備の整備

- 私立高校に比べ、建物や機材などの老朽化が目立つ。もう少し物理的な学習環境をよくすることが必要である。
- 自習室の有効活用は、最小の経費で最大の効果を発揮する。冷暖房完備の自習室を1年中使用できるよう、予算措置することで、学力向上に直結する。
- 単純にいい校舎、いい機材でなく、例えば、風土料理を提供できるような食堂があれば、地域の活性化にもつながり、そうした施設も魅力のひとつになる。採算だけ、教育だけでなく、いろいろな角度から検討してほしい。

□その他

- プランの方向性や具体案は、目指すべきものが列挙されており実現できればすばらしい。教職員の増や施設の整備など、多大な費用を伴う内容が多いが、教育は未来への投資であることを念頭に積極的な予算配分をしてほしい。
- 本当にこの推進案のような高校教育の大々的な改革を進めるなら、提案だけでなく、具体的な人員、予算、思い切った施策が必要であり、行政、教育現場ともに覚悟が必要である。すべては生徒のためであり、内容の伴わない数字や結果だけで判断されるような教育行政はやめるべきである。
- 各高校に、様々な名称の学科やコースがあり、かつ、横文字が多用されているので、非常にわかりづらい。生徒が魅力を感じるとともに、「名は、体を表す」ような学科名にしてほしい。
- 以前、高校に寄付をしようとしたが、個人からの寄付は受けづらいと言われた。寄付金は高校で自由に使えないからのようだが、私立高校や大学では、卒業生などに対して積極的に寄付を呼びかけている。公立高校でも簡単に個人が寄付できるようなくみを作り、そのお金を学校で自由に使えるようにすべきではないか。
- 学校の現状と生徒の様子を把握した上で、府立高校全体のレベルアップを考えた取組をすることが重要である。高校生の学力差・地域格差・公立と私立の格差をみれば、現状への危機感がもっと必要である。少子化が進む中、物事に取り組む意欲が乏しく、やってもらって当たり前と考える子どもを作り出しているのは大人であり、教師である。家庭の教育力が低下し、学校や教師への要求が増え、教師がその対応を負担に感じ疲弊している。特に子どもに直接向き合い、誠実にまじめに取り組む教師ほど、多くの仕事がのしかかり、時間的・精神的余裕がない。
- 高校のレベルアップには中学との連携が不可欠であるが、高校からの発信が不十分である。高校に進学するには、それに見合う学力・社会性が必要だが、中学校で身につけられているのか疑問である。子どもたちが進路を実現するためには、中学校の時点から個々の将来設計、自分の生き方、社会貢献等について考えることが必要である。コミュニケーションを行うよう子どもたちに指導する教師自身、特に中高の教師間でのコミュニケーションが不足している。最近、校種間連携が取り組まれているが、高校のレベルアップには、中学校の教師が高校の授業を体験して高校の現状を知り、中学生に何が必要か理解して指導していくことが必要である。